

テリトリーの形成が既婚女性自身及び家庭生活に与える影響について

○ 今井純子 中島喜代子（三重大）

目的：近年女性の社会進出のめざましい中、住まいにより人間的・文化的な要求を満たすための基盤の必要性や要求が増加していると考えられるが、実際には既婚女性の個室所有率は低く、個室要求も低調である。そこで、本研究ではその1として既婚女性のテリトリーの形成要因を探り、さらにその2ではテリトリーの形成が既婚女性自身及び家庭生活に与える影響について明らかにし、家庭における既婚女性の場がいかにあるべきかということを追求めたいと考えた。尚、本報告はその第二報である。

方法：調査は平成6年8月から9月にかけて、一戸建て住宅団地に住む既婚女性を対象とした。有効サンプル数は、505件である。

結果：既婚女性が私室にテリトリーを形成することにより、プライバシーの確立や趣味の増大、友人との交際率が高まるなどといった個人生活の確立を促すこと、個人的行為やプライバシーに関わる日常行為を一人で行うことを可能にすること、また、一人になれる場、くつろぎの場をもてるといった傾向がみられ、個室が既婚女性にとって精神的拠点の場となっていることがわかった。さらに、私室にテリトリーを形成している既婚女性の場合、個人的行為は個室で、家族と共に行いたい行為は共有室で行うというように場の選択を行っており、個人生活のみでなく家族生活の確立促進への影響もみられた。